



白桜小だより

平成 28年度 7月号
中野区立白桜小学校
校長 宇賀神 佳子
平成 28年 7月 1日発行

「Hello！」

副校長 藤原 留美子

「Hello」「你好」「안녕하세요」そして「こんにちは」と、様々な国の挨拶が交わされました。明治大学国際日本学部の留学生と日本人学生が来校され、先月20日には4年生と、24日には3年生と交流した時のことです。子供たちは、外国語活動の時間に学習した英語での挨拶や英単語を使って、留学生と一緒に折り紙で七夕飾りを作ったり願い事を短冊に書いたりしたあと笹に飾りました。また、一緒に給食を食べながら、留学生の国の挨拶を習って、早速挨拶を交わしたり、スポーツや食べ物などについて英語を交えて話したりもしました。



【留学生の願い事】

- ・ I want to come back to Japan.
- ・ 日本語がおぼえられますように。
- ・ 私は、白桜小学校の皆様 健康で立派に育つことを願います。

【3・4年生の願い事】

- ・ 英語をペラペラ話せるようになりたい。
- ・ 家族みんなが幸せで100さいまで生きられますように。
- ・ こんどまた、7人のりゅう学生にあえるように。

外国語活動における相手意識を醸成するという活動のねらいがありましたが、3・4年生の子供たちは出会って数分も経つと、自ら率先して挨拶を交わし、留学生の片言の日本語に助けられながらもジェスチャーを交えて表情豊かに話していました。そして、楽しみながらコミュニケーションをとっていました。

現在、世界に存在する言語の数は千数百とも数千とも言われていますが、どの言語にも挨拶の言葉があるそうです。いくら時代が進化し情報が発達しても、人と人とが出会ってコミュニケーションをとるきっかけが、挨拶であることは世界共通なのです。

昨年度に引き続き、今年度も「挨拶」を生活指導の重点として年間を通して指導を行います。6月は代表委員の児童が「どうしたら学校中にあいさつが広まるだろう」と話し合い、毎朝校門に立って、自ら挨拶を実行しました。詳しくは、今月号の特集記事をお読みください。

本校では「思いやりのある子」の育成を教育目標の一つとして、互いの気持ちを理解しようとする心を育てるために、様々な場面で具体的な事例を通して指導しています。

「あいさつ運動」で代表委員の児童が考えたテーマは、「挨拶が交わされる学校にしよう」です。子供たちがしっかりと学び、豊かなかかわりをはぐくみながら、社会に踏み出す一歩に、確かな自信をつけていきます。